

大阪医療センターをご利用くださる先生方へ

Osaka National Hospital

独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターニュース
News

No.65

令和元年10月

このニュースは、年4回、
大阪医療センターの最新情報をお届けいたします。
詳しいお問い合わせは
地域医療連携室までお寄せください。



目次

地域医療連携室より

- ・ 講演会のご案内 2
- ・ 新任及び退職医師のお知らせ 2

病院のトピックス

- ・ 山上宏脳卒中内科科長 就任のご挨拶 3
- ・ 第66回 おおさか健康セミナー開催報告 6
- ・ 連携医療機関で紹介ページ作成のご案内 8
- ・ アドベンチャーホスピタル2019
in 大阪医療センター 10
- ・ 脳卒中・循環器疾患におけるホットラインのご案内 15
- ・ NHO PRESS ～国立病院機構通信～について 15

独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター

地域医療連携室 令和元年10月発行 65号

〒540-0006 大阪市中央区法円坂2-1-14

TEL.06-6946-3516

☎ 0120-694-635

FAX.06-6946-3517

[HP] <https://osaka.hosp.go.jp>

[E-mail] 408-comonh@mail.hosp.go.jp

～ 独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの理念～

私たち、独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの職員は、

- 1、医療に係わるあらゆる人々の人権を尊重します。
- 2、透明性と質の高い医療を、分け隔て無く情熱をもって提供します。
- 3、医学の発展に貢献するとともに良き医療人の育成に努めます。
- 4、常に向上心をもって職務に専念し、健全な病院運営に寄与します。

～理念に基づいた病院の基本方針～

—— 独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの診療・研究・教育方針 ——

1) 政策医療の推進

- ・ 基幹医療施設としての「がん」「心・大血管疾患」「脳卒中」「糖尿病」等、高度総合医療の実施
- ・ HIV/AIDS先端医療の推進（近畿ブロック拠点病院）
- ・ 3次救急医療と災害医療の推進（西日本災害医療センター）
- ・ 専門医療と総合診療の充実
- ・ 医療機関の機能分担の推進と地域医療への貢献（地域医療支援病院）



2) 高度先進医療への貢献

- ・ 技術開発：先進的医療の基盤となる技術の研究開発とその臨床応用の確立
- ・ 臨床研究：病因の解明、診療治療法の開発等の臨床並びにその基礎となる研究の実施
- ・ 臨床試験の推進：治験を含む臨床試験の円滑な実施とその管理・支援

3) レベルの高い医療人を育成

- ・ 卒前教育：医療系教育施設と連携した教育活動と実習生の受入
- ・ 卒後研修：初期臨床研修医及び後期臨床研修医（専修医）等、卒後の医療技術者の育成
- ・ 専門職の育成

4) 情報開示と情報発信

- ・ 透明性を保った情報の開示・発信

新任及び退職医師のお知らせ

新任医師

異動年月	職名	氏名	異動内容
2019/ 7/1	耳鼻咽喉科医師	武田 和也	採用
2019/ 7/1	整形外科医師	高嶋 和磨	採用
2019/ 7/1	整形外科医師	名倉 温雄	採用
2019/ 7/1	外科医師	高橋 佑典	採用
2019/ 7/1	眼科医師	橘 依里	採用
2019/ 8/1	皮膚科医師	池田 彩	採用
2019/10/1	婦人科医師	赤木 佳奈	育児休業復帰
2019/10/1	麻酔科医師	桐山 有紀	育児休業復帰
2019/10/1	救命救急センター医師	中倉 晴香	採用

退職医師

異動年月	職名	氏名	異動内容
2019/5/10	麻酔科医師	桐山 有紀	育児休業
2019/5/21	感染症内科医師	来住 知美	退職
2019/5/31	麻酔科医師	西村 暢征	退職
2019/6/ 7	総合診療部医師	小笠原充幸	退職
2019/6/30	集中治療部長	木下 順弘	退職
2019/6/30	手術部長	榊 雅之	退職
2019/6/30	耳鼻咽喉科医師	大西 恵子	退職
2019/6/30	整形外科医師	黒田 泰生	退職
2019/7/31	皮膚科医師	原田 潤	退職
2019/8/ 1	麻酔科医師	中西裕貴子	育児休業
2019/8/31	小児科医師	五味久仁子	退職

講演会のご案内

開催日時	件名	内容	対象者
令和元年10月26日(土) 14:00～16:30	第68回おおさか健康セミナー	テーマ：認知症と難聴について 担当：耳鼻咽喉科	一般市民
令和元年10月27日(日) 13:00～16:00	知ってはる？脳卒中！	テーマ：予防や救急治療などについて 担当：脳卒中内科	一般市民及び医師 及び医療従事者
令和元年11月16日(土) 15:00～17:30	第48回法円坂地域医療フォーラム	テーマ：未定 担当：総合診療科	医師及び 医療従事者
令和2年 2月 8日(土) 15:00～17:30	第49回法円坂地域医療フォーラム	テーマ：未定 担当：緩和ケア内科	医師及び 医療従事者

開催場所 大阪医療センター 緊急災害医療棟3階講堂 **アクセス** 地下鉄谷町線・中央線「谷町4丁目」駅①号出口すぐ

問合せ 地域医療連携室（電話：06-6946-3516）



脳卒中内科科長 就任のご挨拶

本年6月1日より、脳卒中内科科長を拝命いたしました山上 宏（やまがみひろし）でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私は1993年に浜松医大を卒業し、大阪大学旧第一内科に入局しました。星ヶ丘厚生年金病院（現星ヶ丘医療センター）内科医員、国立循環器病センター内科脳血管部門レジデントとして研修し、大阪大学大学院病態情報内科学で博士号を取得後、神戸市立医療センター中央市民病院 脳卒中センター医長を経て、2012年より国立循環器病研究センターに赴任し、2016年より同センター 脳卒中集中治療科医長として勤務して参りました。今回、大阪大学神経内科 望月秀樹教授のご推挙を賜り、伝統ある国立病院機構大阪医療センターで診療科長としての大役を仰せつかりました。専門は脳卒中全般ですが、特に急性期治療と脳血管内治療を中心とした診療と研究を行ってまいりました。

脳卒中は日本人の死因の第4位であり、さらに命が助かって後遺症のために日常生活に支障を来し、寝たきりになってしまうことも少なくありません。超高齢社会を迎えたわが国において、高齢の脳卒中患者さんはまだまだ増加することが予想されています。このような状況にあって、脳卒中医療で重要なのは「予防」と「急性期治療」です。

予防においては、高血圧や糖尿病、脂質異常症など動脈硬化危険因子の管理、心房細動に対する抗凝固療法などが充分に行われれば、脳卒中の発症率は半減するといわれています。また、急性期治療ではtPA静注療法に加えて、近年脳梗塞に対するカテーテル治療が目覚ましい進歩を遂げており、これまでは寝たきりになっていた重症脳梗塞の患者さんが、後遺症なく退院されることも珍しくなくなりました。

国立病院機構大阪医療センターでは、これまでも脳卒中内科と脳神経外科が協力して脳卒中診療にあたりましたが、今後はさらに積極的に取り組んでまいります。脳卒中を疑う緊急患者がいらっしゃいましたら、当院の脳卒中ホットライン【06-6946-3543】へ24時間365日いつでもご連絡ください。また、原因不明の脳卒中の精査や再発予防治療、頸動脈・頭蓋内動脈狭窄症などに関するご紹介は地域医療連携室の方へご紹介頂ければ幸いです。

大阪を、脳卒中にならない街、脳卒中になっても困らない街にするため、全身全霊を傾けて努力して参ります。

独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター
脳卒中内科科長 山上 宏



国立病院機構

大阪医療センター脳卒中センター

Stroke Center, National Hospital Organization Osaka National Hospital

国立病院機構大阪医療センターの脳卒中センターでは、下記のような患者さんを積極的に受け入れています。救急搬送・ご紹介をよろしくお願いいたします。

- 急性期脳梗塞：tPA静注療法・血栓回収療法が24時間365日体制で対応可能
- 原因不明の脳卒中：徹底した原因精査と適切な再発予防治療
- 頸動脈・頭蓋内動脈狭窄症：外科・血管内・内科治療による脳梗塞予防
- くも膜下出血：開頭クリッピング術や血管内治療に常時対応
- 未破裂脳動脈瘤：外科・血管内治療によるくも膜下出血の予防
- その他、脳卒中全般に関するご相談



脳神経外科科長 藤中俊之



脳卒中内科科長 山上 宏

脳卒中ホットライン (24時間対応)

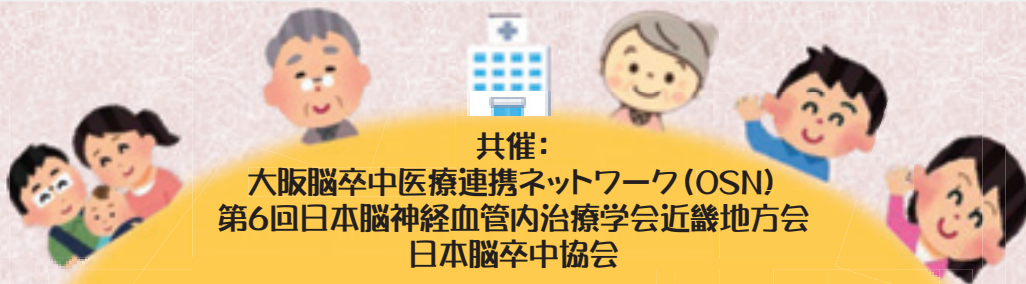
06-6946-3543

地域医療連携室

(土・日・祝祭日・年末年始を除く、8:30～17:15)

TEL : 06-6946-3516 (直通)

FAX : 06-6946-3517 (直通)



共催：
 大阪脳卒中医療連携ネットワーク(OSN)
 第6回日本脳神経血管内治療学会近畿地方会
 日本脳卒中協会

知ってはる？脳卒中！

～ならへんためにどうするん？ なってしまたらどないする？～

会場：国立病院機構大阪医療センター 災害医療棟

2019年10月27日 日
 13:00～16:00
 (12:30開場)

事前予約制
 先着300名
 参加無料



講演会 13:00～14:00

司会： 大阪市立総合医療センター
 脳血管内治療科 副部長 石黒友也
 開会挨拶： 国立病院機構大阪医療センター
 院長 是恒之宏
 ならへんために(予防)： 中山クリニック
 院長 中山博文
 なってしまたら(救急治療)：
 国立病院機構大阪医療センター脳卒中内科 科長 山上 宏
 後遺症はどうする(リハビリ)： 森之宮病院
 副理事長 宮井一郎

相談コーナー 14:00～15:30

脳卒中後の生活、栄養、お薬などに関する相談

体験コーナー 14:00～15:30

カテーテル治療体験、片麻痺体験、動画上映

脳卒中経験談 15:30～16:00

**オール
 阪神さん**

阪神師匠が語る
 脳卒中ってこなんやで！



CYOSHIMOTO KOGYO CO.,LTD.

会場案内

国立病院機構大阪医療センター
 〒540-0006 大阪市中央区法円坂2丁目1番14号



- 地下鉄： 大阪メトロ 谷町線・中央線「谷町四丁目」駅下車、①番出口。
- J R： 大阪環状線「森ノ宮」駅下車、地下鉄中央線乗り換え、「谷町四丁目」駅下車、①番出口。
- バ ス： 大阪シティバス「国立病院大阪医療センター」下車。

お問い合わせ先

国立病院機構大阪医療センター
 担当 地域医療連携係長
 06-6942-1331 (代表)
 *お申し込み方法は裏面をご確認ください

当日は開催風景を撮影しますので、あらかじめご了承くださいませようお願いいたします。また、オール阪神様の撮影はご遠慮ください。

第66回 おおさか健康セミナー開催報告

国立病院機構 大阪医療センター 緩和ケア内科医員 相木 佐代

第66回おおさか健康セミナーを、2019年4月20日午後2時から大阪医療センター災害医療棟3階の講堂で開催致しました。今回は『もっと知ろう！緩和ケア』と題して、ケアサポートチームの多職種メンバーで担当致しました。

緩和ケアに対する認知度は低く、日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団が日本国内の男女1000人を対象に2012年に行った調査では、ホスピスへの認知度は6割であったのに対し、自宅でも同様のケアが受けられることを知っている人は3割、緩和ケアとは実際にどのようなことをしているのかまで理解している人はわずか1割ほどという結果でした。

また医療用麻薬に対しても、最後の手段だと考えている人は6割に上り、寿命が縮む、中毒になると考えている人も1割いることがわかりました。

2018年に実施された厚生労働省の「平成29年度人生の最終段階における医療に関する意識調査」によると、終末期における医療・療養についてこれまで考えたことがある一般国民の割合が約6割を占める一方で、実際話し合ったことがあるのは4割、詳しく話し合っているのは3%にも満たないことがわかりました。そもそも、一般国民のACPの認知度はわずか3%で、約75%の人は聞いたことすらないのが現状でした。それを反映してか、日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団の調査

第66回

申込不要
参加費無料

おおさか健康セミナー

講演 メインテーマ **もっと知ろう! 緩和ケア**

日時 **2019年4月20日** (土) 14:00~16:30

会場 **国立病院機構 大阪医療センター 緊急災害医療棟3階 講堂**

講演内容 座長 国立病院機構 大阪医療センター 臨床腫瘍科 科長 **久田原 郁夫**

第1部 **緩和ケアってなあに? ~痛みや苦痛を和らげるために~**

国立病院機構 大阪医療センター 緩和ケア内科 医師 **相木 佐代**

第2部 **医療用麻薬(モルヒネなど)ってどんなお薬?**

国立病院機構 大阪医療センター 薬剤師 **仲野 宏紀**

第3部 **痛みについて伝えよう、話し合おう**

国立病院機構 大阪医療センター がん性疼痛看護認定看護師 **井出 恭子**

第4部 **これからのことを話し合おう**

国立病院機構 大阪医療センター がん性疼痛看護認定看護師 **井出 恭子**

| 質問に対する回答 | いただいた質問に回答します。時間の関係上、全ての質問にお答え出来ない場合がございますのでご了承ください。

▶▶▶
次回開催予定 | **2019年8月24日(土)** (下部消化管外科)

▶▶▶
お問い合わせ | 国立病院機構 大阪医療センター 地域医療連携室 衣斐
TEL 06-6942-1331(代)

で、自宅で過ごしたいし実現可能だと思う人が3割以上いたのに対し、実際自宅で見取りを迎えたのは1割程度にすぎないことがわかっています。

このような視点から、緩和ケアとは具体的にどんなことをしているのか、当院ではどのようなサポートが受けられるのか、医療用麻薬とはどんな薬なのか、今後の話し合い方のヒントなど、主にがんを中心に診断期から看取りに至るまでに課題となるテーマを取り上げました。

第1部の「緩和ケアってなあに？」では、相木から、緩和ケアという言葉聞いたことがない方でもイメージしやすいように、がんを例にとり、それぞれの状況に応じてどのように関わるのか具体的に例を挙げながらお話ししました。ほとんどの方が、緩和ケアという言葉を目にしたことがあったので、緩和ケアは終末期だけのものではなく、治療を頑張るためのサポートも行っていることや、家族ケアも緩和ケアの一環であるというメッセージをお伝えしました。

第2部では「医療用麻薬ってどんなお薬？」というテーマで、緩和薬物療法認定薬剤師であり、ケアサポートチームの専任薬剤師でもある仲野薬剤師から、国内の意識調査を踏まえて、患者・家族が抱きやすい不安がほぐれるように、効果と副作用、誤解について丁寧に説明をさせていただきました。

第3部と第4部は、がん性疼痛看護認定看護師

で、ケアサポートチーム専従看護師であるの井出副部長から、「痛みについて伝えよう、話し合おう」「これからのことを話し合おう」と題して、痛みを医療者や家族に伝えるコツやその大切さについて、そして人生の最終段階だけでなく、日頃から大切にしていることや価値観を共有しておくことの大切さとポイントについてご紹介させていただきました。

当日は、院外103名、院内5名、計108名と多くの方々にご参加いただき、幅広いご質問をたくさん頂戴いたしました。ありがとうございました。

個別性の高い分野であり、限られた時間の中では具体的なところまで踏み込んでお話しすることが出来ず、少し物足りなさを感じた方もいらっしゃるようですが、私たちが伝えなかった、診断時からの緩和ケアの必要性と、苦痛や将来について話し合う事の大切さについては、ご理解いただけたのではないのでしょうか。

大阪医療センターケアサポートチームは、外来・入院を問わず、治療経過に合わせてきめ細やかな支持療法・緩和ケアが提供できるように、多職種や施設間の連携を強化し、日々知識の向上に努めながら、チーム一丸となって精進してまいります。

最後に本セミナーの企画、運営に協力していただいた職員の皆様、そしてご参加いただいた皆様に深謝申し上げます。



連携医療機関ご紹介ページ作成のご案内

国立病院機構 大阪医療センター 地域医療連携推進部長 巽 啓司

地域の病院、診療所の先生方におかれましては、平素より当院との地域医療連携にご協力いただきありがとうございます。

当院では、先生方との連携強化を図るために、『病診連携医制度』を設けておりますが、このたび、2019年6月より当院ホームページ内に『連携医療機関のご紹介ページ』を作成いたしました。

本ページでは、診療科と地域から、またはフリーワードで検索していただけますので、患者さんが簡単に連携医療機関を見つけることができます。医療機関情報は、各施設が厚生局へ届出された情報により定期的に更新してまいります。また、各医療機関のページでは、写真（2枚まで）やコメント（全角100文字以内）を掲載することも可能ですので、ご希望の先生は下記までご連絡ください。また紹介ページへの掲載を希望されない場合も、その旨ご連絡ください。

また、当院の病診連携医に新たに登録を希望される先生には、下記までご連絡いただけましたら、『連携医制度要綱・申込書』をお送りします。手続き完了後に『大阪医療センター連携医証書』を郵送いたします。なお、当連携医制度への登録に関しては、特別な条件や費用の発生はありません。

今後とも地域連携にご協力を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

お問い合わせ先：地域医療連携室
TEL：06-6946-3516
MAIL：408-comonh@mail.hosp.go.jp

大阪医療センター 連携医療機関のご紹介

かかりつけ医との連携

地域医療連携室は、大阪医療センターの窓口として、また患者さんの遠隔支援を通じて、地域の医療施設からの紹介・送迎や様々な問い合わせに対応しています。地域に届かれない医療提供体制を構築するためには、「かかりつけ医」との連携がたいへん重要です。

連携医としてご登録いただきました医療施設とは、密な情報連携のもと、紹介・送迎や救急受け入れ等、患者さんに対して効率的でより良い医療を提供できるメリットがあります。現在、大阪市内をはじめ近隣エリアの700を超える医療施設にご登録いただいております。

下記より当センターとの連携医療施設をご覧いただけます。かかりつけ医をお探しの際には是非ご活用いただければ幸いです。

今後とも連携医療施設、並びに大阪医療センターへの変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

国立病院機構 大阪医療センター
地域医療連携室



すべて - 18 内科 - 10 中央区 - 100 法円坂

キーワードで絞り込み

独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター
大阪府大阪市中央区法円坂二丁目1番14号

診療科、地域を選択し、
医療機関名をクリック！



大阪医療センター 地域医療連携検索システム medimap

独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター

住 所 : 大阪府大阪市中央区法円坂二丁目1番14号
電 話 : 06-6942-1331(昼/代表) 06-6942-1334(夜/代表)
管 理 者 : 楚恒 之宏
ホームページ: <http://www.onh.go.jp>
駐 車 場 : あり 有料120台 1. 一般料金 終日(0:00~24:00): 30分200円 2. 外来受診・入退院当日の送迎 最初の3時間: 無料、3時間以上4時間未満: 100円、4時間以上8時間未満: 200円、8時間以降: 60分100円



診療時間	月	火	水	木	金	土	日
内科	08:45-17:15	08:45-17:15	08:45-17:15	08:45-17:15	08:45-17:15		
腎臓内科	08:45-17:15	08:45-17:15	08:45-17:15	08:45-17:15	08:45-17:15		

休診日: 土曜日、日曜日、祝日、1月1日、1月2日、1月3日、12月29日、12月30日、12月31日

当院では、三大疾患である、がん、心臓病、脳卒中をはじめとして、広い領域の疾患を取り扱っており、患者さんに高度で総合的な医療を提供するため、病院すべての能力を結集し職員が昼夜を問わず取り組んでいます。



こちらは 2018/08/11 21:20:54 現在の情報です。最新の情報は各医療機関に直接お問い合わせください。

アドベンチャーホスピタル2019 in 大阪医療センター 2019.6.23(日)

毎年恒例のアドベンチャーホスピタルを6月23日(日)に開催いたしました。アドベンチャーホスピタルは、病院の診断から治療まで体験できる当院開催のイベントです。各部署のブースでは様々な体験・展示を行っており、将来、医療職を目指す中学生・高校生をはじめ、近隣住民の方など多くの方々に参加して頂いています。今回は、臨床研究推進室・臨床工学室・臨床心理室での体験・展示について、報告いたします。



臨床研究推進室 瀬野 千亜紀

臨床研究推進室では毎年「くすりができるまでの道のり」というテーマで、「治験」が厚生労働省から薬として承認してもらうために行われる「試験」であること、薬が誕生するまでの流れ、CRCの活動内容など、広く治験について知ってもらうことを目的としたブースを出しています。



参加者にこんな薬があったら良いなと思うものを記載してもらう「あったらいいな、夢の薬」コーナーでは、小さな子どもが書いたのか「まほうつかいになれるくすり」「そらをとべるくすり」などかわいらしい薬から、「頭がよくなる薬」「花粉症が一発で治る薬」のような現実的な薬まで80以上の夢の薬が集まりました。当室のブースはち

けん君(日本医師会治験促進センターのキャラクターです)の人気を武器に「ちけん君と一緒に写真撮影」には70名ほど、「ちけん君と〇×クイズ」には30名ほどの小さな子どもから中学高校生までに参加してもらい、楽しんでもらうことができました。「薬はこんな風につくられるんですね」とパネルやポスターをじっくりと読んでいる人もおり、治験を知ってもらえるいい機会になったと思います。参加者から将来CRCの職に就く方がいることを願っています。

治験はまだまだ知らない人も多いので、これからもこのイベントに参加して、一緒に盛り上げていきたいと思っています。



臨床工学室 町屋敷 薫

臨床工学室の体験内容は子どもたちにガウンを着てもらい、人工心肺装置、人工呼吸器、補助循環装置の操作および説明を行いました。

受付では人工呼吸器を使って本物の豚の肺に換気をさせています。実際に肺が膨らむ様子や、換気を停止した時の状態など、リアルに自分の目で確認できてとても好評でした。受付を済ませた子どもたちはガウンを着て、すっかりミニ臨床工学技士となり、普通の生活では、まず見ることもない人工心肺装置を無邪気に操作して、とても楽しんでいました。その他、人工呼吸器設定における一回換気量や呼吸回数との関係など、少し難しい内容になると引率の親御さんも興味津々で話を聞いてくださり、両方が楽しめるイベントになったと思います。



受付の人工呼吸器のデモンストレーションでは、医師や看護師、さらには看護学校教員の方々にも興味を持っていただき、呼吸器設定の変更が実際の肺にどのような影響を与えるのか、また無気肺がどんなもので、どのように発生するのかを真剣に試されている姿も見受けられました。「頭で理解していることが視覚的に確認できるので、非常に有用であった。」と多くの感想をいただきました。高校の先生方の参加も多く、お話を聞くと、「最近、臨床工学技士養成校への進学を希望する生徒が多い」とのことでした。学校で臨床工学技士の魅力を存分に伝えていただけると嬉しく思います。

私自身も、休憩時には他部署の催しを見学し、一部は業務を体験することができました。普段はほとんど関わることもない職種の業務内容について説明を受けたり、いつもはDrが実施している手技をシミュレーターを使用して体験することが出

来ました。他職種が担う仕事の重要性や難しさを知ることができる非常に良い機会となりました。



病院には、医師や看護師以外にも様々な職種が存在して、協働しながらチーム医療を実践していることを知ってもらえるととても素晴らしいイベントだと思いました。



臨床心理室では心理士の仕事を紹介する展示と共に、「臨床心理士体験」として、心理士の仕事の1つである心理検査を体験してもらいました。とはいえ、実際にある自記式の心理検査を“模したもの”を用いて、自分の性格特性を把握することに取り組んでもらいました。定員32名のところ、38名（うち2名は見学の保護者）の方々がご参加下さいました。

終了後の感想としては、「当たってると思った」「面白かった」「自分では知れない面も知れてよかった」「普段は忙しくて自分を振り返る機会もないけど、こうして振り返れてよかった」と概ね好評でした。ほんの少しですが、自分自身を客観的に見つめる時間をもってもらえたかと思います。

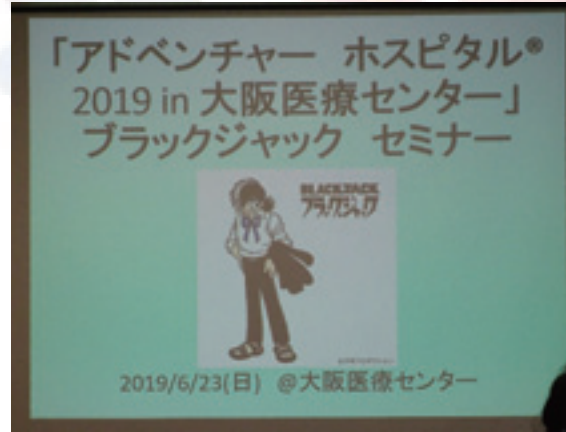
臨床心理室ではここ何年か同じ出し物でやらせて頂いていますが、去年も体験したというお子さんが今年も来られていて、「同じ心理検査でもまた自分が変わってるだろうから」と心理検査にとっても興味を持って参加して下さいました。色々質問もして下さいました。当院のアドベンチャーホスピタルも回を重ねていく中で、地域子ども達とのつながりも深まっているのかなと感じる経験でした。

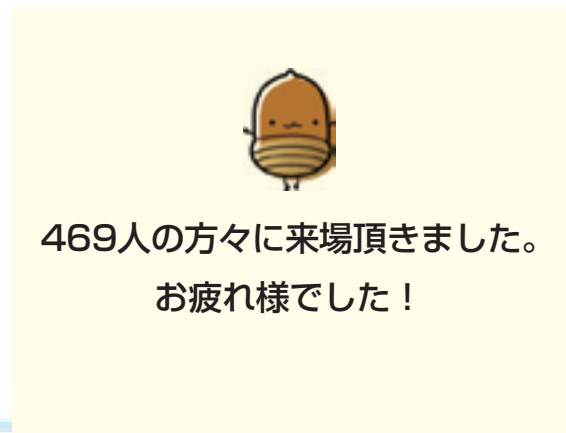
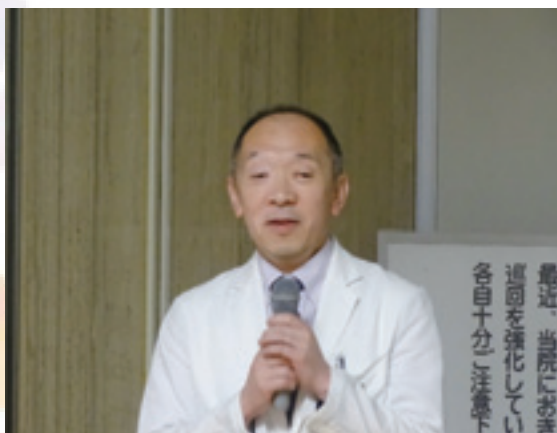


スタンプラリーのクイズの文言がちょっと難しかった小学生のお子さんに、保護者の方が説明して下さいているのを耳にしましたが、ここ何年かで非常にカウンセリングやカウンセラー、心理士への理解も浸透してきているように思われ、嬉しく思うと同時に、今後も期待に応える働きをしていかねば、と気持ちが引き締められました。こころの時代と言われて久しいですが、将来、こころのケアの専門家を目指すお子さんが増えてくれるといいなと思います。



その他の様子





脳卒中・循環器疾患におけるホットラインのご案内

当院では、主に救急隊からの脳卒中・循環器疾患による患者搬送を受け入れられるよう、脳卒中・循環器ホットラインを設置しておりますが、本ホットラインは救急隊からの要請に限定したものではありません。広く各医療機関様からのご連絡も24時間お受けできる体制を取っています。

貴院かかりつけ患者様あるいは救急搬送された患者様で、脳卒中・心臓・大血管疾患の急変等が起こった際の搬送先として、当院のホットラインをぜひご活用ください。



独立行政法人 国立病院機構

大阪医療センター

〒540-0006 大阪府大阪市中央区法円坂2-1-14 TEL: 06-6942-1331 (代)

循環器ホットライン

06-6946-3544

循環器疾患24時間対応します。

脳卒中ホットライン

06-6946-3543

脳血管疾患24時間対応します。

医師及び消防局救急隊からの電話に限ります。

NHO PRESS ~国立病院機構通信~について

大阪医療センターは、国立病院機構（NHO：National Hospital Organization）という141の病院からなる国内最大級の病院ネットワークの病院です。

国立病院機構（NHO）という病院ネットワークが、どのようなグループでどのような活動をしているのかを紹介する『NHO PRESS~国立病院機構通信~』を発行しています。

ホームページに最新号と過去のものを掲載していますので、ぜひご覧になってください。「NHO PRESS」で検索してください。



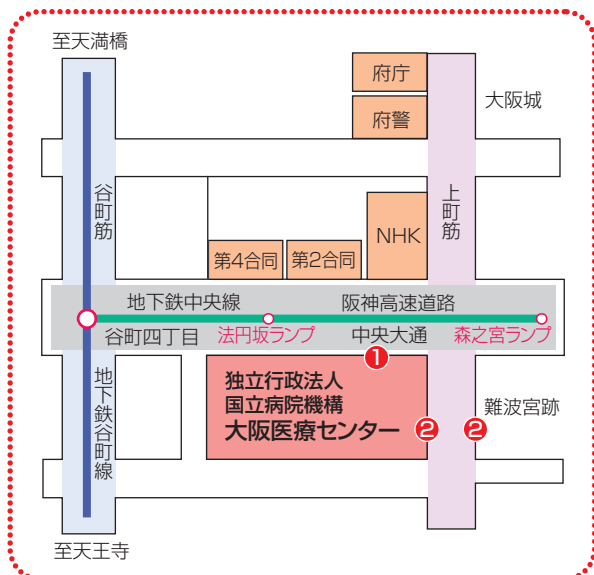
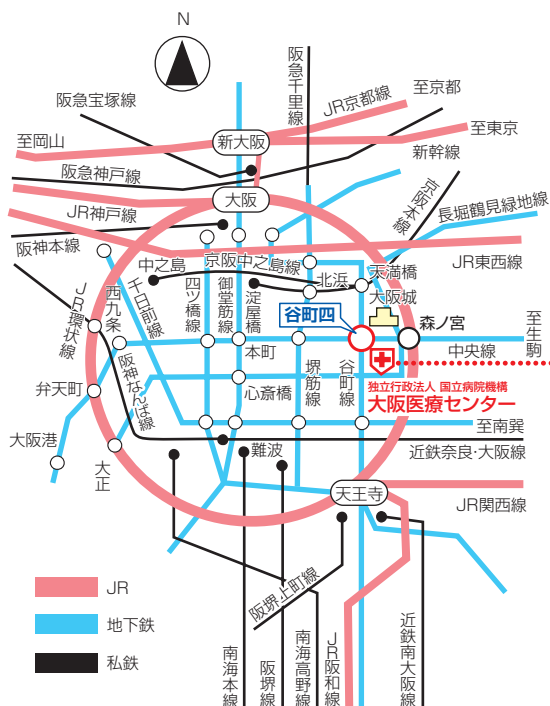
QRコード



NHO PRESS

検索

交通のご案内



① 地下鉄「谷町4丁目」11番出口 ② 市バス「国立病院大阪医療センター」

■地下鉄

谷町線・中央線「谷町4丁目」駅下車 ①番出口すぐ

■J R

大阪環状線「森ノ宮」駅下車、地下鉄中央線乗り換え
「谷町4丁目」駅下車 ①番出口すぐ

■バス

市バス「国立病院大阪医療センター」下車

■マイカー・タクシー

・阪神高速 13号 東大阪線

▼環状線経由の場合

「法円坂」出口 上町筋を右折すぐ

▼東大阪方面からの場合

「森之宮」出口 中央大通り直進、上町筋を左折すぐ

・上町筋と中央大通りの交差点の南西角

・お車の出入口は上町筋です。